

小学生昇級審査試合



楽しむ人がうまくなる

研究する人がうまくなる



小学生による転倒時の対処法の研究

楽しみ、創造力、
高い知識と高度な技、
新しい社会文化としての
空手を是非ご覧ください

2009年度春季 幸栄館空手府中大会

子供・一般昇段
昇級審査試合

高段者模範
試合

高段者による
研究紹介

研究の行い方
説明

参観無料

2009年5月3日 日 13:00～17:00

会場／府中市立郷土の森
総合体育館第二武道場

主催／国際拳道学連盟師範会

創造未来

を目指して50年
国際拳道学連盟

幸栄館空手の大会の趣旨

- 研究成果の発表の場
- 様々な人との交流

幸栄館空手の試合は、勝敗をきめるものではありません。自分が学び、研究してきたものを発表する場であり、他支部の人と交流を図る場です。相手を思いやりながら、日ごろの研究成果を発表する場として考えてください。



高段者模範試合

昇段昇級審査試合の視点

- 安全・安心を心がけているか
- 勝ち負けにこだわっていないか
- 相手の技を受けたらはっきりと自己申告しているか
- 相手のことを気遣った試合を行っているか
- 色々な工夫を行っているか



自己申告による試合

大会プログラム

- 開会の挨拶／説明
- 高段者による模範試合
- 高校生以下の部の審査試合
- 高段者による研究紹介
- 一般の部の審査試合
- 「研究の行い方」説明



高段者による2対1の対処法実演

特別企画:「研究の行い方」説明

今回、国際拳道学連盟八段山本師範による研究の行い方の講義が行われます。山本師範は、京都大学博士(情報学)であり、企業の基礎研究部門に15年以上勤務し、現在も研究プロジェクトのリードを行っている研究の専門家です。今回、子供から大人までを対象に、幸栄館空手でどのように研究を行えばよいかをお話いただきます。



高段者による研究紹介

師範会より一言

今日空手は世界的に普及し、多くの団体ができましたが、幸栄館・拳道学は創立55年を迎えようとしており、このような実績のある団体はたいへん稀であります。なぜ50年以上も続いているのか、その答えは、修業者の将来を見据えた全人教育にあるからです。指導の根幹に学問を置き、文武兼備の人格者を養成しています。勝負を重要視している他の武術やスポーツと一線を画した私達の取り組みを、ぜひご覧ください。

相模原支部師範 大槻信幸

国際拳道学連盟の紹介

www.kendougaku.com

空手を教育のための文化として学術的に研究しています。国際拳道学連盟の創始者である大西栄三先生は、伝統的な空手のすべての技を習得し、歴史学／社会学／倫理学／心理学／教育学／保健医学などの分野から見直し、膨大な学術的研究により、空手を学問として理論と技術の再構築に成功しました。国内だけでなく、米国を中心とした海外にも多数の支部があり、多くの会員が学んでいます。

拳道学創始者 大西栄三
昭和7年生。慶應義塾大学卒

昭和29年より安全な防具と試合の研究開始。昭和30年幸栄館設立。昭和31年安全防具実用化に成功し、多数の大会を開催。昭和50年国際拳道学連盟を設立し、空手を学問として再構築。現在に至る。

